

# 学校教育の充実

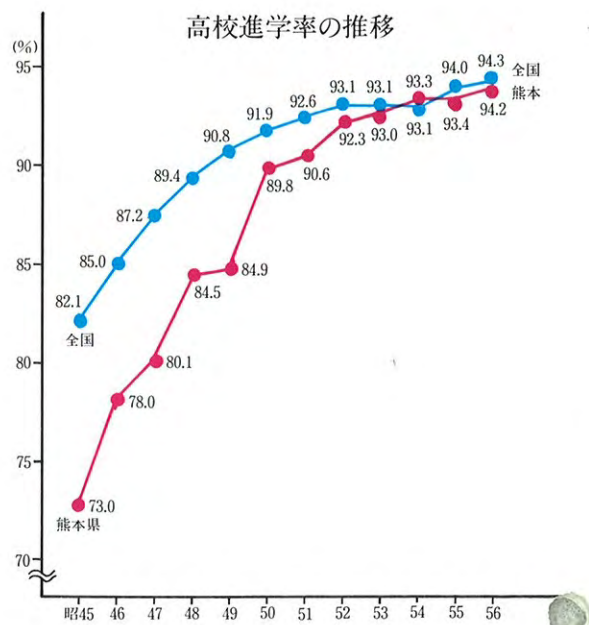
学校教育は、生涯にわたる教育のなかで中心的な役割をこなすものです。県としては、これまで市町村や関係団体と一体となって、教育内容の向上、教育機会の拡充、教育環境の整備を進めてきました。

まず、県立高等学校にあっては、昭和46年度以降10校を新設するなど、収容力の増加につとめてきました。この結果、全国にくらべて低かった高校進学率は、昭和56年度94.2%となり全国平均との格差もほとんど解消することができました。

なお、中学校卒業者の急増が予測される熊飽地区には昭和58年開校を目指して、さらに普通高校の建設を急いでいます。

つぎに、心身障害児の教育については、昭和54年度から養護学校の義務制実施に対応して10校の養護学校の新設を行い、就学のための条件整備をはかってきました。

一方、教職員の資質の向上をはかる研修施設として昭和49年に県立教育センターを建設するとともに、県立女



子大学については、時代の進展に対応する教育・研究の充実をはかるため、55年に移転開学を行ったところです。なお公立学校とともに県教育の振興に当たって重要な役割をになっている私立学校については、経常費等の助成の拡充につとめてきており（助成総額は、昭和45年の約1億円に対し56年は42億円）、私学における教育条件の維持向上ならびに修学上の経済的負担の軽減をはかるとともに、私立学校の経営の健全性を高めて、私学の振興をはかることにしています。

# 社会教育の推進

社会教育については、社会教育主事等指導者の確保や、コミュニティカレッジ講座の開設などによる学習機会の提供につとめてきていますが、とくに施設については、県立天草青年の家（昭和47年）、県立菊池少年自然の家（昭和50年）建設などをはじめとしてその整備を進めてきました。これらの施設は開設以来、多数の青少年の利便があり、その健全育成の場として大きな役割を果たしています。さらに、下益城郡豊野村に第2番目の県立少年自然の家の設置を予定するとともに、青年教育の活動の拠点となる財団法人青年会館に対して57年度に県費を助成することとしています。また、県立図書館については、県内の中心的な図書館としての機能を持つとともに、熊本ゆかりの文豪などの資料を収蔵展示する熊本近代文

学館を併設した近代的総合図書館として、移転新築の計画を進めているところです。



県立女子大学



菊池少年自然の家